

平成28年度 新東北 交流会 in 釜石 開催報告

平成28年12月17日（土）
『釜石情報交流センター』 チームスマイル・釜石PITで開催しました！

メインテーマ：『地域コミュニティ活性化（最新事例の共有と交流）』

この度、復興庁では、『新しい東北』の実現に向けて、官民連携をより一層推進するため、『地域コミュニティ活性化』の最新事例の共有、参加者間の交流等をテーマとした『新しい東北』交流会を釜石で実施しました。

当日は、全国から様々な取組を行っているゲストを釜石に招き、復興・創生に携わる方々、さらに高校生やお子様連れのお客さんも気軽に参加出来る企画を実施し、延べ約250名の皆様にお越しいただきました。

※今回の交流会の様子は協議会のウェブサイト（http://www.newtohoku.org/works_report）およびFacebookページでも紹介しています。（<https://www.facebook.com/newtohoku>）

■ オープニング

山下復興庁岩手復興局長の開会挨拶に続き、野田釜石市長からご挨拶を頂きました。



■ 【パネルディスカッション】

『東北が目指す地域コミュニティとは何か?』をテーマに釜石リージョナルコーディネーター協議会（釜援隊）の二宮 雄岳氏のファシリテートのもと、菊池 亮氏（社会福祉法人釜石市社会福祉協議会 地域福祉課長 兼 生活ご安心センター副センター長）、船戸 義和氏（岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 地域コミュニティ再建支援班 特任研究員）、岡本 佳久氏（独立行政法人都市再生機構岩手震災復興支援本部住宅整備部住宅計画チーム）、秋田 典子氏（千葉大学大学院園芸学研究科 准教授）の4名のパネリストの方々と、今後の地域コミュニティの在り方について議論していただきました。



地域コミュニティの形成支援の事例紹介として、釜石での取り組みや、陸前高田での取り組みを通し、地域の課題を地域で解決する為の仕組みづくりの大切さ等のお話を頂きました。

「東北が目指す地域コミュニティとはなにか?」をテーマとしたディスカッションでは、復興・創生期間の今後5年間に於いて、官民間のセクターを越えた連携が必要になり、役割分担を行い、お互いに助け合うことが重要だという意見が出ました。



「東北から全国へ、少子高齢化時代の地域コミュニティ活性化」をテーマとしたディスカッションでは、地域ごとに取り組んで参考になったことを発信していくこと、地域コミュニティの活性化を他人事ではなく自分事として捉えること、支援から自立のプロセスの際にレベルアップを見据えて、多様な主体が連携することが必要だという意見が出ました。

■ 【ピッチ大会】

持ち時間は10分、という限られた時間の中で、『地域コミュニティの活性化の取組の紹介』をプレゼンしていただくピッチ大会を実施しました。

登壇していただいたのは、千田 榮氏 高橋 和也氏（特定非営利活動法人カリタス釜石）、海老原 祐治氏（地域支援団体 釜石支援センター 代表・センター長）、吉澤 武彦氏（一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事）、道前 理緒氏（酒うらら店主）、相澤 謙一郎氏（タイムカプセル株式会社 代表取締役）、太田 将司氏（東松島食べる通信編集長）、吉野 和也氏（大槌食べる通信編集長）、林 信吾（くまもと食べる通信 代表）の8団体9名です。



■ シンポジウム・映画上映

映画館のない釜石市で、片淵須直監督の『この世界の片隅に』を上映し、お子様からご年配の方々まで数多くの方に鑑賞していただきました。

映画上映後は、『地域コミュニティの歴史を次代に生かす新潮流』と題して、同作品の映画監督である片淵 須直監督、丸山 正雄プロデューサーに登壇いただき、タイムカプセル社 代表取締役 相澤 謙一郎氏をモデレーターに、文化継承の重要性や、その組織作りなどについてお話しいただきました。

参加者からの事後アンケートでは、平和教育として小中学校でも是非上映してほしい等の感想も数多く頂きました。



■ セミナー・ワークショップ

2階会議室では、高校生限定による、『地域でクリエイティブに働く事例を学ぼう!』と称し、株式会社BUTTON 代表取締役 浦谷 和生氏を講師に、ITを通じて地域から世界レベルへのサービス、作品を発表している企業等を紹介しました。

高校生からは、自らアイデアを出す重要性や、起業という選択肢等、就活の考え方に変化が出た等の感想を頂きました。



■ 東北と熊本をつなぐローカルメディアの輪

1階ラウンジでは、『食べる通信』の取組事例として、東松島食べる通信 編集長 太田 将司氏、大槌食べる通信 編集長 吉野 和也氏、くまもと食べる通信 代表 林 信吾氏によるトークセッションを行い、食材付情報誌というモデルで自走するローカルメディアの展開と、農家や漁師といった生産者と都会の消費者のつながりを創出するノウハウをお話しいただき、地域コミュニティのヒントを頂きました。

また、ラウンジ内にあるミッフィーカフェでは、くまもと食材の試食イベントとして、ご来店頂いた方々に「宝石トマト」をご提供しました。



■ テクノロジーを体感！ 親子で遊ぶ魔法のようなプロダクト

今回の交流会in釜石では、お子様も楽しめるプログラムを開催しました。

株式会社BUTTON アートディレクター 木富 慎介氏によるワークショップとして行われた『PLAYFUL BOOKS まほうのえほんづくり』では、実際にご来場いただいた皆様に絵本づくりを体験していただき、大変好評でした。

デモ展示されたクラフト楽器は、不思議なペン（導電性インク）で描いた絵が楽器に早変わりするなど、テクノロジーと手触りで魔法のような体験ができる楽器です。

参加頂いたご家族からは、普段体験出来ない事を、今回の交流会で体験する事が出来てよかった、スマートフォンを利用したこんなコンテンツがあるのを知らなかった等の感想を頂きました。



■ 懇親会

今回ご登壇頂いた『パネルディスカッション』のパネラーの方々や、『ピッチ大会』のプレゼンターの方々と懇親会を実施し、地域コミュニティの在り方等、意見交換会を行いました。

また懇親会では、被災地間交流の一環として釜石市の銘菓「釜石通り塩マドレーヌ」や、熊本の銘菓「熱いも いきなりさんど」なども振る舞われました。



～ご協力・ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました～

お問合わせ

※当交流会の事務局運営については、株式会社JTBコーポレートセールスが受託しております。

新しい東北

検索

いいね!

「新しい東北」交流会事務局（株式会社JTBコーポレートセールス 東京中央支店内） 担当 西田、安海（あずみ）

E-mail: nt-info@bwt.jtb.jp

WEBサイト: <http://www.newtohoku.org/>

TEL: 03-6737-9292（平日9:30～17:30）※土曜、日曜、祝日は休業となります。Facebook: <https://www.facebook.com/newtohoku>

主催：



官民連携推進協議会（事務局：復興庁）



新たなステージ 復興・暮らしへ